

第2回新技術導入に関するハンズオン支援事業検討会 議事概要

<日 時>

令和5年10月10日(火) 10:00～11:30

<参加者> (敬称略)

・委員

東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター センター長 久田 真、
日本大学工学部 土木工学科 教授 岩城 一郎、富山市 政策参与 植野 芳彦、
北海道大学大学院 工学研究院 教授 長井 宏平、
東京大学大学院 工学研究科 教授 堀田 昌英

・事務局

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 課長 齋藤 博之、
アセットマネジメント企画調整官 岩井 聖、インフラ情報・環境企画調整官 金井 仁志、
調整官 原田 駿平、課長補佐 前羽 利治、情報企画係長 高島 佑樹 (記)

<内 容>

(1) 支援自治体の決定について

事務局より応募自治体について説明を行い、事務局案の通り、応募があった全13自治体を選定することが認められた。

(2) アドバイザー公募要領(案)について

事務局より説明を行い、下記の意見があった。修正等については、後日、委員に改めて相談することとなった。

委員：アドバイザーの公募要綱の中に、アドバイザーが孤立しないように、当検討会や国土交省に加えて、SIP、土木学会インフラメンテナンス総合委員会、インフラメンテナンス国民会議などとも連携して自治体支援を進めることを記載していただきたい。

事務局：ご意見を踏まえ、追記する。

委員：同一のテーマでアドバイザーの応募が競合した場合は、評価点数で決定するのか、検討会で決めるのか。

事務局：基本的には評価点数で順位付けをした上で、検討会に諮って決定したい。なお、一定の評価点数以上を獲得した候補をリスト化した上で、実際に派遣されるアドバイザーは当該リストのなかから、検討会の議論を経て決定する形としたい。

委員：アドバイザーの評価項目について、専門分野と自治体ニーズが合致することが前提となっている。他方、別の評価項目では、専門分野に関する経験年数や自治体が求める分野の業務経験がある場合に評価することになっているが、実質的に同じものな

のではないか。専門分野の中にさらに細分化された分野が想定されており、それを評価するということか。

事務局：専門分野の評価項目については、道路、河川などの分野について、自治体の求める分野と合致しているか評価することとしている。一方、職歴や業務経歴については、より詳細な業務経験や、橋梁や除雪など専門分野の中でのより詳細な専門性について評価する想定。わかりづらい部分かと思うため、表現を修正する。

委員：組織応募について、複数の専門分野で応募してきた場合、ある特定の専門分野に限定してアドバイザーに選定されることはあり得るのか。

事務局：そういった場合も考えられる。なお、発注準備や発注などの検討段階ごとに、別の組織や個人のアドバイザーが担当する可能性もある。

－以上－